

第 13 期 通常 社員 総会 開催報告

- 1 日時 平成 29 年 5 月 18 日 (木) 午後 1 時 20 分から午後 2 時 50 分
- 2 場所 武蔵浦和コミュニティセンター 8 階 第 7 集会室
- 3 社員総数 64 名
- 4 出席社員数 47 名
- 内訳 本人出席 18 名
- 書面表決者 29 名

開会にあたり来賓の埼玉県環境部資源循環推進課、安藤宏課長様より祝辞を頂きました。

本日は第 13 回埼玉エコ・リサイクル連絡会の総会、誠におめでとうございます。御案内のように、埼玉県資源循環推進課では、循環型社会確立を目指して、日々努力をしているところでございます。

さて、一般廃棄物の県内の状況ですけれども、直近のデータが平成 7 年度のデータで、1 人 1 日当たり 884 グラムという数字が出ておます。昨年度が 897 グラムということですので、少しずつではありすけれども着実に減ってきているという状況にございます。いわゆる

「リデュース」の部分がしっかりと進んでいっていると考えております。全国ベースですと 939 グラムということで、全国と比べても埼玉県内では「リデュース」の方はかなり進んでいると思います。全国で見ると良いほうから 8 位となっております。皆様方の御努力が数字に表れてきていると考えている次第でございます。

それからリサイクル率ですが、こちらにつきましても、24.7%という数字が、平成 27 年度の数字でございます。昨年度と比べますと 0.1 ポイント増というかたちで、リサイクルのほうもおかげさまで着実に進んでいるというような状況でございます。これも皆様方、住民の皆様方の御努力の賜物であると考えております。この場をお借りして、あらためて感謝申し上げたいと思います。

いま、災害がいろいろなところで話題になっております。昨年度は熊本の地震、その前年は常総市での大雨ということで、災害廃棄物というものも行政といたしましては非常に大きな課題になってきているところでございます。特に、災害廃棄物は、地震にしても大雨にしても、いっきにごみがでてまいりますので、それにしっかりと対応しなければいけない。ごみを片付けるにあたりまして、しっかりと分別していくということが、最終的に「リサイクル」につながってまいります。どうしても、災害ということを考えますと、”とりあえず、とにかく出してしまえ”となりがちですが、このごみはこの場所に、このごみはこの場所にとということで、仮置き場の整備も重要となってまいります。そういったところも、県といたしましても市町村と一緒に図上訓練というものを昨年度から始めました。特に災害の初期には、いろいろな情報とか苦情とかいっぺんに寄せられます。それをなんとか短い時間のなかで対応していかなければならないということで、即座に判断を求められる、しかも情報が足りない。そういった中での判断を訓練していくといことを、昨年度から始めたところでございます。まだ 1 回目ということで、各市町村の皆様も戸惑い、もちろん県もそういった状況ではあった訳ですけれども、しっかりと行政として進めていきたいと思っております。



ご
の

2
り
ま

ただ、行政だけでできるものではありません。住民の皆様や皆様方と一緒に進めていくことが大事であると思っております。また機会を見つけて、災害廃棄物などについても御紹介をさせていただけるとありがたいと思っております。資料提供などもさせていただきたいと思っている次第でございます。

さて、本日、記念講演として、後ほど、「エコ・リサの 25 年」とうことで、初代会長、大江宏様から御講演と承っております。25 年を振り返るということもとても大事なことでありと思っております。それによって進む方向も見えてくるというところもあります。また、世界的にみますと SDGs、サステナブル・ディベロップメント・ゴールズの中でも、「リサイクル」、資源循環といったものが 3 つほど謳われております。将来や世界を見据えたかたちでも、ちょうど 25 年というものが良い機会になってくると考えている次第でございます。

本日は短い時間であるとは存じますけれども、この循環型社会に貢献する貴重な機会であると思っております。県もしっかりやらせていただきますので、今後ともよろしく申し上げます。これで御挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

5 議題

- 第 1 号議案 平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）事業報告承認の件
- 第 2 号議案 平成 28 年度活動計算書、財産目録及び貸借対照表承認の件
- 第 3 号議案 平成 29 年度役員選任の件
- 第 4 号議案 平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）事業計画承認の件
- 第 5 号議案 平成 29 年度活動予算承認の件

6 議事の経過及び結果

- (1) 理事の齋藤 勉氏が本日の社員総会は社員総数の過半数を超えるので本総会が成立することを認める旨を述べて、開会を宣言した。
- (2) 理事の齋藤 勉氏から議長の立候補を個人正会員に求めましたが立候補者が無かったので、個人正会員の清水 守氏を指名、議長の選任につき諮ったところ、賛成多数をもって個人正会員の清水 守氏を議長に選任した。
- (3) 議事録署名人選任の件
議事録署名人につき個人正会員に立候補を求めましたが立候補者が無かったので、議長から本日出席の理事の石川恵輪氏及び理事の上領園子氏を指名し諮ったところ、賛成多数をもって同意がなされた。
また、議長は書記として出席会員から理事の原田 史氏を指名し了承を得た。
- (4) 第 1 号議案 平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）事業報告承認の件
議長は上記議案を上程し、平成 28 年度の事業の内容につき概要を専務理事の宮田尚美氏が説明して議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決した。

(5) 第2号議案 平成28年度活動計算書、財産目録及び貸借対照表承認の件

議長は上記議案を上程し、活動計算書、財産目録及び貸借対照表の内容につき概要を理事の高橋茂仁氏が説明した。引き続き、監事の平田 繁氏より第1号議案および第2号議案についての監査を行った結果、事業活動・活動計算書が公正に処理されている旨、報告され議決を求めたところ、賛成多数により原案を承認可決した。

(6) 第3号議案 平成29年度役員選任の件

議長は上記議案を上程し、理事及び監事の全員が本通常社員総会の終了をもって任期が満了するので、理事11名及び監事2名の選任を継続したい旨を述べ、原案の下記理事11名及び監事2名の候補者につき議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決し、選任された理事及び監事は、その場で、就任を承諾した。

直ちに別会場において第2回理事会を開き、役員互選を行い会長には石川恵輪氏が就任する事が専務理事の宮田尚美氏より報告された。

記

理事	石川恵輪	(再任)
理事	大前万寿美	(再任)
理事	上領園子	(再任)
理事	齊藤勉	(再任)
理事	高木康夫	(再任)
理事	高橋茂仁	(再任)
理事	土淵昭	(再任)
理事	轟涼	(再任)
理事	中澤啓子	(再任)
理事	原田史	(再任)
理事	宮田尚美	(再任)
監事	島田憲一	(再任)
監事	平田繁	(再任)



(7) 第4号議案 平成29年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)事業計画承認の件

議長は上記議案を上程し、平成29年度事業計画の概要を専務理事宮田尚美氏が説明して議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決した。

(8) 第5号議案 平成29年度活動予算承認の件

議長は上記議案を上程し、平成29年度活動予算の概要を理事の高橋茂仁氏が説明して議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決した。

以上をもって本総会のすべての議案の審議が終了したので、議長は閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人2名がこれに署名、押印する。

平成29年5月18日

議長 清水 守

議事録署名人 石川恵輪

上領園子

総会記念講演報告

「エコ・リサの 25 年」：テーマを手掛かりに、ごみ・環境問題を振り返る(要旨)

初代会長 大江 宏

1 はじめに

現在「エコ・リサ」との関わりは多くはないので、テーマを語るに相応しい者ではありませんが、発足当初に関わった一人として、またエコ・リサは、自分の環境問題やごみ問題への大事な原点・実践のフィールドであり、私のエコ・リサ時代を振り返る機会を頂き感謝致しております。



2 「エコ・リサ」の発足

1) エコ・リサ発足(1993.)のころ、すなわち1990年代初頭の社会状況は、ご存知のように、バブル経済がはじけ、成長第一主義、開発主義、巨大企業のグローバル化などのツケが顕著になり、ふと足元を見れば、自然破壊・環境破壊、地域破壊、ごみ問題などが急速に進行していて、またオゾン層破壊、地球温暖化、世界各地の環境破壊など地球規模の環境問題がメディアでクローズアップされ、人々の関心が高まらざるを得ない時代でした。

1990年のアースデイのイベントで娘と一緒に地元を歩いた時、茶畑に散乱するペットボトル、狭山丘陵に不法投棄された産廃に驚きましたが、それは各地で発生しているごみ問題の一部だったのです。

2) 埼玉県「リサイクル団体交流会」(1990)を機に、エコ・リサ前会長の高木康夫(JC埼玉ブロック)さんたちが奔走して、県内リサイクル団体のネットワークづくりへの取り組みが始まり、設立準備会を経て、1993年11月「埼玉エコ・リサイクル連絡会」が発足しました。

本連絡会は、従来のリサイクル団体の連絡会ではなく、「エコ・リサイクル」を目指し、市民(団体)・事業者・行政など全関係者が参加し、パートナーシップを目指す新しいネットワークと位置付けました。JC埼玉ブロックの参加・協力と県のサポートは、発足当初からその趣旨に合うものでした。

3) 「エコ・リサイクル」の「エコ」は、「エコロジー」を導き手に「エコノミー」を活動の推進力とする二重の「エコ」を意味していました。環境配慮と保全に貢献し、経済性・効率性にも優れた持続可能で循環的・共生的なリサイクルを目指そうというものでした。



3 エコ・リサの発展

エコ・リサはその後、高木前会長・石川現会長のリーダーシップと全役員の協力の下で、大きく発展してきました。特徴の変遷を簡単に表現すれば次の点があります。

・交流・情報交換型ネットワーク⇒学習・自前の調査分析活動の活発化⇒提案・啓発・情報の蓄積と発信などの活動へと発展・深化。さらに、地域社会や国際的貢献にも活動が拡大

・設立11年目の2004年には、NPO法人化で組織体制を確立し、事業活動(総会、記念講演、研修見学会、交流会、講演会、学習会、委員会など)を活発化、充実化

・他方、組織の担い手の高齢化、若い世代の加入不足、活動量の増大と負担増などの課題

4 おわりに

エコ・リサを取り巻く環境変化も進んでおり、さらなる進化が要請されていると思います。

1) 『循環型社会白書』(H28)にあるように、自然の循環と経済社会の物質循環、すなわち「二つの循環の調和」が重要であり、川下だけでなくモノのライフサイクル全体をとらえる視点が大切である。

2) 環境省「循環型社会形成に向けた意識・行動調査結果」(H29)にみるように、3R全般に関する意識が減少傾向にあり、また具体的な3R行動は、高い行動は高く低い行動は低いままの状況への対応も考えていかなければならない。

(以上)



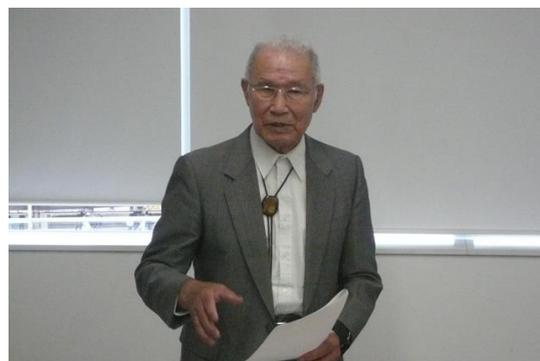
エコ・リサ総会講演会後の意見交換

司会：意見交換に先立ち、当会の初代事務局長の土淵さんにお話をお願いします。

土淵さん：エコ・リサが毎年行っている2大イベントは研修見学会と交流集会で、他にも多くの活動を行っていてその主な目的は環境問題、主としてごみ問題に関する情報収集・交流および得られた知識の普及啓発を実施しており、それはそれで重要なことであるが、もう少し具体的にごみを減らし、資源化推進を実行するための活動、特に県や自治体へ働きかけるとともに、協働して実行に移すことに力を入れる必要があるのではないか。

例えば埼玉県焼却炉は建設以来年月が経って老朽化しているものが多く、建設し直さなければならなくなっているが、焼却炉の建設には莫大な費用が掛かり、国や自治体も財政が厳しい中で今後の重要な課題になっている。

狭山市(人口15万3千)では、燃やすごみを1/10以下に減らして焼却炉も1/10以下の小さなもので間に合うような施策の提言をしました。



この提言書は土淵が原案を作り、NPO 法人さやま環境市民ネットワークの名前で狭山市長に提出したもので、5月25日に狭山市の環境経済部長並びに資源循環推進課と具体的な推進方法について協議をいたしました。

この協議は今回が第1回目で今後何度も打ち合わせを重ねて推進する予定になっています。皆様のお住いの自治体でも推進出来たらよいな、と思います。

岩田さん : 連絡を取り合って、県のニーズにも応じていくことで、活動の幅がひろがるのではないかな

高橋さん : エコ・リサイクルの名前の“リサイクル”は陳腐化していないかな？

焼却炉を減らそう！とかエコ・リサの事業が方向性を持って行った方が良いのではないかな？という事を考えると名称も考え直しては？

河登さん : 高橋さんの会の名称についてのご意見に賛成です。具体的にどのような名称にすべきか、と言うご提案があれば是非お聞かせください。

長岡市のバイオマス事業は、私も見学したが経済性が良く分からない。つまり、長岡市だからできる特殊ケースなのか、普通の自治体にも適用できる一般的なケースなのか。土淵さんのご提案が実現すれば、普通の自治体でも適用できる、ということになり、素晴らしい。狭山市長に出された提言を見せて頂けるか。

土淵さん : 市は経費の事ばかり言うので、財政のコスト削減のできる提案書を出した。

隣の市とかと協力して一緒に作る（施設を）方法もあるが、それではなかなか前にすすまないで、まず、狭山市でやろうということになった。去年、市の職員に話して賛同が得られたが4月になったら課長が移動になってまた振り出しに戻ってしまった。

市長に持って行かなければ動かない。

老朽化した焼却炉は沢山あるので、そこへ提言してゆけば良いのではないかな？

河登さん : 市との交渉の中で出された問題をまた知らせていただけるかな？

土淵さん : そうなったらHPに載せても良いのでは？

岩永さん : 行田・鴻巣・北本で新しく焼却炉を作る予定があり、提言したいが、検討委員は市会議員とかで、専門の人はいない。

土淵さん : 何処に生ごみの処理施設を作るかな？が難しい。決まれば企業がお金を出すので、企業誘致もでき、市がお金を出さずに工場ができる。

中川さん : ごみは市町村任せで県は広域化に機能していない。

高橋さん : 行田・鴻巣・北本の今はどうなっているのかな？

草加はまわりの5市1町で事務組合を作っているが、広域化の悪い所は市の行政マンが及び腰で動けない

岩田さん : 組合と行政で責任が曖昧になり、ごみの問題がたらいまわしになる。

上領さん : 鶴ヶ島市、毛呂山町 越生町 鳩山町の1市3町で組合をつくっているが、毛呂山町では“生ごみは入れません！”のごみ袋を無料で配り、焼却ごみの減量に努めている。生ごみは畑に持って行ったりして処理する。

焼却ごみが減れば負担金が減るので、負担金の事を訴えれば市長も協力する。

次の焼却炉は鳩山町に作るようになったが、人口も減りごみも減っているので小さくなった。

今までの焼却炉の跡地はリサイクルプラザや分別施設にし、いずれは焼却炉もなくなるように運動している。

寺川さん：プロジェクトや提案を行政に行うだけでは、実行に至らないことが多いということがままありました。これからの協働ということを考えると行政（市長、担当部署）とのパイプや連携だけではなく、立法（議会）、企業などステークホルダーへの働きかけが必要になります。その視点が必要です。

さいたま市のゴミの有料化は以前から話があったのですが、議員の反対（有権者の1票がこわい？）があり実現しませんでした。また桜環境センターができたことにより最終処分率が低下したこと、ゴミの排出量が下がっていること、最終処分場所確保に余裕ができたことなど、緊急性がなくなったこともあります（さいたま市大崎周辺で埋めていた最終処分ゴミを掘り起こし、桜センターで最終処分しています）

石川さん：交流集会は当初県が主催だったので県が予算をつけてくれたが、温暖化とか自然エネルギーとかに予算がいきってしまい今は自前で開催している。

各地の審議会等にも多くの方が関わっているので、もっとコミュニケーションを図れるようにしたい。

長岡市の取組が特殊な例なのかどうか？町田市が生ごみの分別回収を計画しているらしいので、今後の動向に注目していきたい。

当会も財政面や新しい方の参加など体質改善をはかったりして持続可能な会にしていきたい。

かつての財政難は回避して運営しているが、各個人のスキルの高さとかでカバーしている面が多



にある。他の方に代われない側面がある。

かつてエコ・リサは敷居が高いと言われたことがある。専門性が高いと多くの方が集まりにくい。

多くの方に集まっていただくには間口を広く、敷居が高い??という誤解?を取り除く努力が必要。どのような方向性でいくのか今後議論が必要である。

(以上)